

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月12日（火）	望月地区区民	浅科センター建て替えに7億円かかると言われればやむを得ないという人もいるかもしれないが、少なくとも合併前の町村に1つつ給食センターはあった方がいい。地元食材の恩恵や食育などの維持のためならば、そのくらい予算をかけてでも構わないと考える。 町村合併時は、旧町村単位の質は下げないといった。17年経過しているいろいろな部分で崩れている。	ご意見として承ります。	方針	ご意見をいただいた皆様の浅科センター存続への思いは、地元食材の恩恵、食育の推進等、給食の質の維持等をご心配されているものと感じております。 今回の集約化の目的は、単に経費を削減するだけでなく、浅科センターの老朽化や敷地の制約などの現状を踏まえ、衛生管理基準を満たした施設にすること等であり、児童生徒の皆さんへの安全安心な給食の提供を持続させることであります。	
7月12日（火）	望月地区区民	浅科と望月を集約すると経費が安くなることは分かったが、小規模化の検討をしたのか。浅科小学校と望月中学校の敷地に給食センターがあり、浅科小学校と望月中学校にとっては自校給食と同じようになっている。その良さを検討したか。	集約化の目的には経費を安くするだけではなく、衛生管理基準を満たした施設にすることがあります。一方、浅科センターを建て替えるには、用地をどうするかなどの問題があります。教育委員会としては、集約化を導き出しました。給食のにおいがするなど自校給食の良さも認識していますが、集約化を進めないと立ちいかなくなる状況です。	方針	一方で、地方自治体には、最小の経費で最大の効果を上げることが求められており、1日1,100食の提供能力のある望月センターに集約することで、既存施設を最大限に活かすことができるとともに、今後の児童生徒数の変化など、将来も見据えた浅科・望月地区の小中学校への給食提供体制の構築には最善の方策であると考えております。	
7月12日（火）	望月地区区民	自校からセンターに集約されてきて、またさらにセンターどおしの集約はあり得ない。	ご意見として承ります。	方針	小学校と給食センターが併設されていることで、調理員と児童のふれあい、給食調理のにおいがするなど自校給食的な良さもあると思いますが、他の給食センターで提供する給食におきましても児童生徒から不満の声などは届いておらず、集約化後の給食センターでも、従前と遜色ない給食の提供が可能であると考えております。	
7月19日（火）	浅科地区区民	統合ありきではなく、浅科センターの改修を検討してほしい。統合は反対。	改修の選択肢がないかということについては、改修も視野に検討しましたが、改修費は予想以上にかかり、また、個別施設計画の趣旨から集約化は避けられないということなどがあり、集約が妥当と判断しました。	方針	集約化後も、これまでの浅科センターと望月センターでの食育などを含めた給食の提供・質については、維持向上に努め、低下の懸念があれば、代替案を模索しながら、児童生徒への美味しい給食の提供に努めてまいります。	
7月19日（火）	浅科地区区民	全国的に給食の無償化が話題になっている。統合したら無償にするとの約束はできるか。	給食費無償化について、他の市町村で取り組んでいる例はありますが、本市においては、法律に基づき給食の材料費は保護者負担、その他の経費は市が負担する原則に則っております。給食費は原則に従い、これからも保護者に材料費分として負担していただくことを考えています。	方針	（その他は左記のとおりです。）	
7月19日（火）	浅科地区区民	資料2ページに児童生徒数の推移があり、減っていく傾向をみると浅科小学校自体を集約するという考えもあるかと思うが、市はどう考えているか。	現時点で、浅科小学校を統合する案は全くあがりません。	方針		
7月19日（火）	浅科地区区民	学校教育は、効率化だけで進めるのではなく、文化としてどうなのか、どういう佐久市にしたいのかなどの視点で進めてほしい。	ご意見として承ります。	方針		

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月8日（金）	望月地区保護者	現在の栄養教諭や給食応援団との食育の取り組みは。	栄養教諭らがクラスへ回って食育指導したり、一緒に食べることを行っています（コロナ禍においては実施していないが） 給食応援団とは、サツマイモや大豆の苗を植える体験や観察をさせてもらっています。	食育等	食育については、栄養教諭等が直接児童生徒と関わる一つの例として、「給食時間の食に関する指導（給食の時間に訪問し指導を行う取り組み）」があります。 これは全センター共通のスタンスとして、全学級を1年間で1回訪問することとしておりますので、集約前と変わらず取り組みます。	
7月8日（金）	望月地区保護者	給食応援団との関わりはいままでどおりか。	基本的にはいままでどおり、後退しないよう進めて行きたいと考えています。	食育等	また、「授業に関連する食に関する指導（時間割の中で食育をテーマとした授業を行う取り組み）」は、学校からの依頼に基づき計画しておりますが、浅科センターでは小学校4年生を対象に年に一度、望月センターでは各校の全校集会にて年に一度実施している状況です。集約後も同様の取り組みを実施していきます。	
7月12日（火）	望月地区区民	五郎兵衛米と望月産コシヒカリは交互に出すイメージか。	お見込のとおりです。	食育等	ただし、浅科小学校においては、給食を取りに来た児童に対し、必要に応じて給食の準備について調理員がアドバイスを行っていますが、集約後は調理員による対応はできなくなります。	
7月12日（火）	望月地区区民	児童生徒数が増えれば応援団の負担は大きくなるか。	絶対数は変わりありません。現在納品している範囲で対応をお願いしていきます。 今後、応援団の皆様と相談協議をしていきます。	食育等	特別メニュー等については、浅科センター独自の取り組みである、読書週間にあわせて本にちなんだメニュー等を出す「読書週間コラボ給食」を年に9回実施しており、このような好評である取り組みは継続していくよう努めます。	
7月19日（火）	浅科地区区民	集約することによって、できなくなる可能性があることをいかに説明するかが肝心。城山小学校が自校給食からセンター方式になり、年20回児童が栄養士と一緒に給食を食べていたのが、年1、2回に減った。手作りのものが少なくなり、冷凍食品を使うことが増えた。できなくなることを市の側から示してほしい。	できることとできないことを精査していきます。	食育等	学校給食応援団との関りについては、浅科小学校において行っている農作業体験として、団員の畑にてサツマイモや大豆の苗植え等の体験を実施しております。この取り組みも団員の皆様にご協力いただき、継続していきたいと考えています。 手作りによる調理については、メニューにもよりますが、可能な限り対応していきたいと考えています。 本来望月センターの所有するスチームコンベクションオーブンは深い鉄鍋を備えており、焼き料理、蒸し料理など、例えば「ミートローフ」や「厚焼き玉子」などの大量調理が可能です。 望月センターは、かつては1,000食近い給食を提供していたことから、望月センターが持つ厨房機器の機能を十分に発揮することにより、今後も効率的に安全安心でおいしい給食を提供していきます。 (その他は左記のとおりです。)	

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月12日（火）	望月地区区民	配送時間5分とあるが、作ってから持っていくまでに時間がかかる。こういう書き方は現実にそぐわない。	あくまでも移動（片道）時間であり、荷下ろしなども換算するとプラス4～5分はかかります。	配送	配送時間について、集約化すると距離とともに時間がかかるというデメリットは確かにあります。 別表 に示すとおり、集約前と集約後の浅科中学校の例を比較すると、トータルで15分の差が生じます。待機時間を極力短縮する工夫・努力はしていますが、現実的には次の要素があり、限界があることもご理解いただきたいと思えます。 ①給食センターとしては、工程上予期せぬトラブルや遅延を避けるために、ある程度余裕をもって調理終了及び配送したいこと。 ②学校給食衛生管理基準において児童生徒が食べる30分前までに学校の責任者（校長）が検食を行うこととなっており、待機時間等含め最低30分前には給食を学校に届ける必要があること等であります。 学校及び現場職員と話を詰める中で、最善の方法を検討してまいります。	左記「別表」については、説明資料再編集を行い、説明資料13ページに添付しました。
7月19日（火）	浅科地区区民	資料に望月センターから浅科中学校、浅科小学校まで配送時間がそれぞれ約15分とある。積み込みの時間を入れるともっと時間がかかる。給食は時間が大事。作ってから時間がかかると味が落ちる。のびたラーメンはまずい。現場の職員の意見を聞いてほしい。	配送時間について、集約化すると時間がかかるというデメリットは確かにあります。給食を食べる30分前には検食があるなどの制約はあるものの、現場職員と話を詰める中で、最善の方法を検討したいと考えています。	配送		
7月12日（火）	望月地区区民	ランチルームの敷地の一部を給食室にすることも検討すべき。大切な調理場を減らし、ランチルームを活かすのは本末転倒。	市としては、市内唯一で親しみある施設を縮小するべきではないと考えています。	ランチルーム	左記のとおりです。	
7月13日（水）	浅科地区保護者	ランチルームはリニューアルする必要があるのか。学校とは相談したか。1年生は39名なのでやむを得ずランチルームで給食をとっているが、夏場はエアコンがないので教室でとっている。むしろ39人の教室を別けるなどの対応のほうが有難い。	ランチルームのリニューアルについては、学校側とも協議したうえで必要性があると捉えています。空調設備（エアコン）の導入も検討していきます。	ランチルーム	左記のとおりです。	
7月13日（水）	浅科地区保護者	ランチルームはどのあたりをリニューアルするのか。概算費用は？	今後の学校施設の改修については、今ある校舎をリフォーム（長寿命化）する考え方にシフトしています。浅科小学校は前倒ししてランチルームのリニューアルを行う予定です。屋根の改修、内外の改装など全体的なリフォームになり、費用は1億円程度を見込んでいます。	ランチルーム	左記のとおりです。	
7月19日（火）	浅科地区区民	ランチルームのスペースを使って、給食受け室を大きくした方がいいと思うが検討をしたか。	ランチルームの有効利用といった観点から、面積を減らすことはできないと判断しました。	ランチルーム	左記のとおりです。	

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月8日（金）	望月地区保護者	コスト（ランニングコスト等）について、現望月と集約後では年間500万円の差、一方で人員は12.5人から15人。望月センターにおいてかなり今のやり方が変わると思う。変わるという認識か。	コストの試算は、同規模の給食提供数をもつ白田センターのランニングコストや人員を参考に行いました。この数値そのまま望月に当てはまるものではありません。移行に際しては、状況を勘案しつつ、いきなりではなく徐々に人員調整を図っていきます。	コスト	【浅科センターが単独で存続する場合の施設整備費】 浅科センターを単独で存続させる場合の施設整備費約7億8,000万円については、直近で建設中の新白田センター（白田新小学校敷地に併設、令和5年度から稼働予定。）の建設事業費に基づき、白田センターが1,000人規模に対し浅科センターは500人規模、白田センターが1,148㎡に対し、参考文献より500人規模では650～800㎡が標準であることから、 高値の800㎡を採用し、試算したものです。	※10月16日の説明会にてご指摘があり、そちらの質疑応答集にて記述を訂正します。
7月8日（金）	望月地区保護者	比較する場合に数値化されるもの。今がどう変わるかをしっかり出す必要があると思う。おいしい材料だけを（資料として）提示することのないように。	財政状況等が厳しい中で、少しでも経費節減につながる取り組みを行わなければならないと考えます。経費については今後精査していきます。	コスト	なお、特定財源としては、当該建設事業に充当可能な「学校施設環境改善交付金」が約4,700万円、「学校教育施設等整備事業債」の活用による普通交付税算入額が約600万円、合計で約5,300万円となり、市の一般財源は約7億2,700万円となる見込みです。	
7月12日（火）	望月地区区民	従事者は23人から15人に減るとなっている。当然合理化の中で、配送も鑑み調理時間を短縮せざるを得ない。地元食材を犠牲にして既製品や冷凍野菜を使うこともあり得るのでは？また、運転手も増やすのか。	同等規模の白田センターを参考として引用しています。他のセンターにおいても極力地元食材を用いて、手作りに努めています。この15人には運転手は含まないので、プラス要因となります。	コスト	一方で、集約化した場合の施設整備については、アレルギー対応専用調理室に対し、同様の交付金が活用できるほか、「個別施設計画」に伴う「公共施設等適正管理推進事業債（集約化・複合化事業）」が充当可能となる見込みであり、これら有利な特定財源を活用し事業を進めていきたいと考えています。	
7月12日（火）	望月地区区民	旧望月町時代には小中学校は自校給食と言っていたが、いつのまにかセンターになってしまった。城山小もあんなに保護者が反対したのにセンター化になってしまった。高崎市はセンターだったが自校に方向転換した。集約化は子どものためになるのか、住民のためになるのか。なんでも合理化で人を減らせばよいというものではない。2tロングトラック導入も無駄。	すべて白田センターと同様になるとは考えていません。必要人員については、新規採用を抑えながら、業務内容に見合った適正人員にすり合わせていきます。	コスト	また、城山小学校の給食室建て替えて、平成24年頃にお示しした概算費用である3億1,500万円とは乖離があるのご指摘ですが、これは「自校方式」と「センター方式」の試算の違いで、センターとして必要な施設（コンテナ室、配送用プラットフォーム、研修室、見学コース設備など）を除いた規格であることと、物価スライド等による影響が主な要因となります。	
7月12日（火）	望月地区区民	昔の記憶だと城山小の給食室建て替えて（勿論ハサップ対応等で）3億数千万円と聞いた。城山小は400人規模だが、それにしても今回資料の7億とは乖離がある。なぜ？	過去の資料は把握していませんが、今回の試算は新白田センター建設事業から浅科センター規模を想定し推計したものです。	コスト	【集約化する場合のランニングコスト】 まず、必要人員の根拠については、資料においては1,000人規模の市内類似センターである白田センターを参考にしていますが、白田センターでは炊飯業務を外注で行っており、一方、望月センターにおいては直営で行うため、炊飯担当要員等を考慮して白田センターの現員13人に2人の増員を見込み「15人」と想定したものです。	
7月12日（火）	望月地区区民	バラ色のメリットだけを羅列するのではなく、デメリットも伝えたい。納得させる必要がある。8ページの約7億8千万円の根拠を示してもらいたい。自校給食の高崎市とセンター方式の前橋市を比べると、ランニングコストは同じ。インシャルコストとランニングコストについては、この資料の金額は正確ではない。納得できる数字を出してほしい。	ご意見として承ります。	コスト	また、白田センターは（北部・南部センターも含めて）配送業務を外部委託としていることから、この集約化を機に望月センターにおいても配送業務外部委託化を視野に入れて検討する必要があります。従って引用した白田センターの13人には配送担当は含まれていないため、見込んだ「15人」にも配送要員は含まれないこととなります。 (次頁へ続く)	説明資料再編集のため、コスト比較は9ページに変更しました。

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月19日（火）	浅科地区区民	<p>客観的に納得を得るために、資料を提供すべき。 資料8ページのコスト比較はひっかかる。浅科センターが単独で存続する場合の施設整備費約7億8千万円は大きく見積もっているのではないか。集約化する場合のランニングコストは、低く見ているのではないか。給食センターを建設する場合、国からの補助がある。市からの持ち出しの額を示さないと比較はできない。給食センターの小型のものと大型のものとは、維持費が違う。面積比では単純に出せない。 五郎兵衛米を専任の調理員が炊いている。これは浅科センターの特徴。 説明会ばかりでなく、メールなどを使って意見集約を探してほしい。</p>	<p>ICTなども活用して周知できる環境を考えていきたいと考えています。</p>	コスト	<p>ただし、望月センターは比較的新しい施設であるため、厨房機器や施設内の動線等における効率化も向上しており、過去においても12人のスタッフ（配送要員も含む）で1,000食規模を担ってきた経緯もあることから、一概に現行の白田センターと単純比較できるものではありません。従って、お示ししている「15人」は最大限とご理解いただきたいと思います。</p> <p>一方、集約化する場合の望月センター維持管理費の根拠については、資料においては1,000人規模の市内類似センターである白田センターの維持管理費「3,800万円」を引用しました。 今回、類似施設のデータをそのまま反映するのでは、正確な情報ではないとのご指摘がありましたので、望月センターにおける実質的な必要人員や光熱水費など、各種データをもって推計しましたが、必要人員で左右されるところではあるものの、上記の望月センターの過去の経緯に基づく人員規模（12人（ただし配送要員は除くため実質的には増員））で想定した場合、ほぼ白田センターの実績の近似値となり、概ね当該見込額の妥当性を確認いたしました。 今後、さらに調査研究を行い、適正な人員、光熱水費等の詳細なデータをもって検証してまいります。</p> <p>【冷凍食品の考え方について】 市内大規模センターにおいても、一部加工食品として既製品や冷凍食品を用いることはあるものの、野菜に関しては以下を除き生鮮野菜を使用しております。冷凍野菜としては、コーン、むき枝豆など。また、さやえんどうやインゲン豆など、季節外れの食材をやむを得ず使う場合（年に一度あるかないか）等です。</p> <p>【デメリットについて】 コスト面におけるデメリットは、 ①集約に伴う施設整備費が発生すること。 ②配送車を2台更新すること。 ③各センターで使っていたコンテナ、食器類の規格を統一化するための更新が必要。等が挙げられます。 施設整備の主なものとしては、アレルギー対応への投資、配送車の更新は現在使用している配送車が更新の時期を迎えることや、時間短縮を図るための投資。いずれも費用対効果やスケールメリットへと結びつくものと考えます。また、コンテナ、食器類の統一化は、現場作業上の効率化等を図るため必要となります。浅科センターから流用可能な備品類の精査を行い、極力有効利用を図ってまいります。</p>	<p>説明資料再編集のため、コスト比較は9ページに変更しました。</p>

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月8日（金）	望月地区保護者	説明会の案内については、広く周知してほしい。市内の他地域にも関心を持っている人がある。今後はホームページなどでも周知してほしい。また、保育園、幼稚園に通っている子ども当事者である。当該保護者へも参集願うべき。また、平日の夜は家事等でなかなか参加できない。休日の昼間なども取り入れてほしい。	今回（7月の説明会）は地元限定とさせていただきます。周知方法については今後検討していきます。	説明責任等	今回（7月）の説明会は、直接関係する浅科・望月地区の区民及び保護者の皆様が対象に開催させていただきました。周知については、6月中旬に浅科・望月各小中学校を通じて、保護者各位へ通知しました。各区民向けには広報7月号と一緒に6月25日頃に回覧をしていただくよう案内文を発送しました。ただし、保護者の皆様には個々に通知をしてありましたので、インターネット等では行っていませんでしたが、第2回説明会を終えた時点で、後半の浅科地区説明会についてホームページにより周知させていただきました。	
7月12日（火）	望月地区区民	参加者が少ない。多くの人に来ていただく努力はしたのか。	6月中旬に浅科・望月各小中学校を通して、保護者各位へ通知しました。各区民へは広報7月号と一緒に6月25日頃に回覧発送しました。保護者等には個々に通知しておりましたので、インターネット等では行っていません。	説明責任等	今後の対応については、これまでの4回の説明会が終わり、左記の様々なご意見を受けましたので、さらに追加の説明会を開催することとしました。ここでは、未就学児の保護者へも呼び掛けを考え、小中学校も含め保育園・幼稚園の当該地区保護者様へはコドモンやオクレンジャーなどの安否確認緊急連絡網をはじめとする通知、また、一般の皆様向けにもホームページ等を用いて周知を行う予定です。	
7月12日（火）	望月地区区民	参加者が少ない。当事者に呼びかける努力をすべき。R8目途ならば現在保育園や幼稚園児を持つ保護者にもしっかりと説明すべき。（重ねて要望）	ご意見として承ります。	説明責任等	なお、その際には、過去4回にわたる説明会の質疑応答を取りまとめ、公表していきます。	
7月12日（火）	望月地区区民	平日夜7時からの開催は参加しづらい。子育て世代にはオンラインや、公式LINEなど、もっとICTなどを活用して周知、意見集約すべき。	ご意見として承ります。	説明責任等	また、パブリックコメント、アンケート調査なども視野に入れて、どのように周知・意見集約をしていくか検討していきます。	
7月12日（火）	望月地区区民	望月は有線放送もある。他地区もそういった媒体を利用すべき。	ご意見として承ります。	説明責任等		
7月12日（火）	望月地区区民	今回の意見を受けて今後はどうするか。パブコメ、アンケートなどの予定は。	今後の対応についてはパブコメ等も含め検討します。	説明責任等	【追加日程】 ・8月21日（日）午前10時から11時 望月駒の里ふれあいセンター ・同日 午後3時から4時 交流文化館浅科穂の香ホール	
7月13日（水）	浅科地区保護者	保護者で、今日集まれなかった皆さんにはどのように周知し、また意見を収集するか。	パブリックコメント、アンケート調査などを視野に入れて、どのように周知していくか検討していきます。	説明責任等	（その他は左記のとおりです。）	
7月19日（火）	浅科地区区民	意見などに対する回答をホームページに掲載しないのか。	説明会の4回を1クールと考えていて、本日の4回目の説明会が終わってから取りまとめをします。	説明責任等		
7月19日（火）	浅科地区区民	説明会の出席者が少ない。平日の夜に出席するのは厳しい。休日の昼間に開催する、学校で開催するなど出席しやすくなるようにしてほしい。幼稚園、保育園の保護者にも出席を呼び掛けてほしい。	説明会開催のあり方について、説明会は本日で4回目が終わりますが、このクールの延長という形で追加の説明会開催を考えています。未就学児の保護者への呼び掛けについても考えていきます。	説明責任等		延期した追加説明会の実施経過を追加しました。
7月19日（火）	浅科地区区民	今までの説明会でのQ & Aがないと同じ質問がでる。ぜひQ & Aをホームページに載せてほしい。	説明のあり方は改善していきます。	説明責任等	開催を予定していました説明会は、長野県全圏域の新型コロナウイルス感染警戒レベルが6に引き上げられており、佐久市内における感染状況が依然として高止まりの状況であることを考慮し、延期させていただきました。	
7月19日（火）	浅科地区区民	自分には4歳の娘がいる。意見集約をするのに、何人から意見を集めるのか数値化した方がいい。資料は配った方がいい。	今後、さらに意見集約について考えていきます。コドモンやオクレンジャーを使うことも考えていきます。	説明責任等	上記延期とした説明会は、新型コロナウイルス感染状況が落ち着いてきたことにより下記のとおり実施しました。 10月16日（日） 午前10時から 望月駒の里ふれあいセンター 午後3時から 浅科支所複合施設 会議室	

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する説明会（7月）質疑応答

日 時	令和4年7月8日（金）	対 象	望月地区保護者（駒の里ふれあいセンター）	出席者 13人
	令和4年7月12日（火）		望月地区区民（駒の里ふれあいセンター）	出席者 10人
	令和4年7月13日（水）		浅科地区保護者（交流文化館浅科）	出席者 17人
	令和4年7月19日（火）		浅科地区区民（浅科支所複合施設）	出席者 15人 4日間の延べ人数：55人

月日	対象	発言（質問）内容	会場での回答内容	カテゴリ	追加回答（ご意見等に対する方針等）	備考
7月8日（金）	望月地区保護者	望月センターは衛生管理基準を満たしているか。	満たしています。	衛生管理基準	左記のとおりです。	
7月13日（水）	浅科地区保護者	子どもの通う学校の自校（的な）給食がなくなるのは非常に残念。保護者としての願いを申し上げる。調理員さんの労働環境を整えてほしい。夏の暑さや冬の寒さなど、劣悪な環境下では、作る給食の質にも影響してくる。また、調理中の衛生管理にも支障が懸念される。	白田センターと浅科センターは現在施設が古く環境は良いとは言えません。白田センターは来年度から新センターに移行となりますが、浅科センターはこの計画どおり進むとしてもあと3年は維持していかなければなりません。現場の声を聞きながら、必要最低限の環境整備は必要であると認識しています。	具体的な取り組み	左記のとおりです。	
7月12日（火）	望月地区区民	全国的には自校給食が注目され、見直されている。自校給食を求め引越す若い夫婦もいる。集約化よりも分散化がトレンドである中で、佐久市としては検討したのか。	センター方式は市の基本としています。今回の議論以前の問題となりますが、センター方式で進めていくのが現在の市の方針です。市の財政状況が厳しくなる中、後世に負担を回さないためにも必要と考えます。給食の質を落とさないよう考えていきます。	自校給食	左記のとおりです。	
7月12日（火）	望月地区区民	自校方式について、もう一度考え直すことはできないか。	自校かセンターかは、それぞれの自治体で状況を踏まえて検討してきたものであり、佐久市はセンター方式を基本として対応してきました。これまで他のセンターにおいても、提供している給食に対して、児童生徒等から不満など聞こえていないなど問題なく運営しているので、現時点では自校方式は考えていません。	自校給食	左記のとおりです。	
7月8日（金）	望月地区保護者	城山小のセンター化以降の検証はされているか。特に食育の分野での検証がされていないと思うがどうか。	今日は用意していないので即答はできませんが、移行前の心配要素は多かったものの、移行後においてマイナスの声は届いていません。	城山小	センター化直後は、一部では「調理員との触れ合いがなくなった」「以前より冷めている」などの意見もありましたが、センター移行後の平成27年度末にPTAの皆様による城山小児童等への給食アンケート結果においては、「（センター給食は）とてもおいしい」が49%、「おいしい」が42.7%、両方の意見で91.7%の児童から高評価を得ています。 その後も南部センターが定期的に行っているアンケート調査等においては、「外注としている米飯の到着時間が早く冷めてしまう」といった意見はあるものの、その他マイナスの声は届いていません。（浅科・望月は直営で炊飯を行うので前例のような心配はありません。）	
7月13日（水）	浅科地区保護者	校舎に非接触型の水道を導入していただいているが、3階は圧が弱くほぼ使っていない状況。確認してもらいたい。	非接触型の水道の圧が弱い件は、担当者が本日出席していないので、伝達します。	その他	翌日7/14に所管課において対応しました。	
7月19日（火）	浅科地区区民	給食調理業務の民間委託について、何回か議論があった。統合することによって給食調理業務の民間委託はしないと約束できるか。	給食調理業務の民間委託については一旦留まり、給食センターの集約化を優先することとしました。民間委託は更に研究を進めて有効な方法を模索していきます。集約化とは一緒に考えません。	民営化	左記のとおりです。	